



ふじ美が原

富士見中学校



特集：三学期始業式

あきらめなければ、夢は叶う 強い心を持ち、取り組み続けよう

三学期始業式 登校日数48日

三学期始業式 学校長の話

明けましておめでとうございます。平成三十一年がスタートしました。平成は今年の五月から年号が変わりますね。本年も、皆さんにとって素晴らしい年となるよう、祈っています。よろしくお願いたします。

今、一年生のK・Aさんが、先達の姿を学ぶことや勉強、部活を頑張ることについて、二年生のK・Sさんは、夢を基に、授業態度や家庭学習の充実と最学年への準備について、三年生のS・Mさんは、入試に向けた勉強、クラスの間と過ごす日々の生活と基本としての生活態度について、三学期の目標を発表してくださいました。皆さんは、三学期や平成三十一年を向かえての目標を立てていますか。もう目標を立てたと言う人？少ないですね。これから、ぜひ自分を振り返ってみてください。

長野県の千曲市出身で、プロ野球の楽天のシーズンで現役を引退しました。聖沢選手を知っている人はいますか？

聖沢選手は、新聞のインタビューで、「夢をあきらめなければ叶うことを証明できました」と答えています。聖沢選手は、中学時代は軟式野球部で、高校も公立の普通高校野球部でした。甲子園へ出場する等の華々しい活躍はしていません。大学へ進学して野球を続け、徐々に頭角を現し、ドラフトでプロ野球の楽天に四巡目に指名され、入団をしました。厳しいプロ野球の世界で十一年間も活躍するのはとても大変なことです。入団五年目には、盗塁王のタイトルも取っています。

さて、先ほど紹介した聖沢選手の「夢をあきらめなければ叶うことを証明できました」という言葉には、その前に別の言葉が付いています。それは、「環境の違いを言い訳にせず、意識を高く持てば」という言葉です。つまり、「あきらめなければ夢は叶う」という言葉は、「願ってさえいれれば夢は叶う」とは違います。今日は、「夢や目標を叶えるために必要なこと」について、考えたいと思います。

エピソードを一つ紹介します。一つ目は、実業団チームに入って活躍した長野県出身の男子バレーボールのA選手の話です。今は、朝の部活動は、やらない中学校が多かったり、やっても短時間の決められた時間に行ったりしています。富士見中もそうだと思いますが、その前に学校へ来て自主練習を行う生徒がいました。A選手は、長野市の中学校の男子バレーボールチームに所属していました。チームのキャプテンでセッターとエースを任されていた。毎日、バレー部の顧問が朝早く学校へ来て体育館の鍵を開けると、入口で待っていたA選手はすぐに体育館へ入り、ボールを触って、トス等の練習を始めます。ところが、他の選手は、鍵が開いてもすぐに体育館に入るのではなく、校庭をランニングして体力トレーニングをしてから体育館に入ります。そのような日々がずっと続くので、ある日顧問の先生が、A選手に「他の選手はみんな校庭を走ってから体育館へ来るのに、どうしてA君はすぐに体育館に入ってくるのか」と尋ねました。するとA選手は、

「日本のトップ選手が集まり、毎日過酷なトレーニングと練習メニューが組まれています。B先生は、その合宿で、吉田選手が誰よりも早く起きてトレーニングに励み、誰よりも遅くまで練習する姿に接し、「すごいなあ」と思っていたそうです。きつい練習が続く中、たまに休みがあります。みんなホッと一息ついて外出し、買い物をしたり、映画を見たりして過ごす中、宿舎に帰ってきてぱっと見ると、外を黙々と走る吉田選手が目にいったそうです。その瞬間、自分は絶対に吉田選手には勝てない」と感じました。

二つのエピソードを紹介しましたが、「夢を叶えられた」という人がよく口にしている「夢をあきらめなければ叶う」という言葉は、ある条件が隠されています。それは、これらの人達は、夢や目標の実現に向けて、あきらめず努力をずっと続けられる心の強さがあったということです。そして、本人の意識は、努力をしている感覚はあまりなく、単に当たり前のことをしているだけということです。

「何と答えたか思い出しますか？」

「A選手は、顧問の先生の問いかけに、「僕は先生が体育館の鍵を開ける前に、校庭を十周走り終えて、それから体育館に来ていました」と答えたのです。

顧問の先生は驚くとともに、見えないところで努力をしているA選手の心の強さに感服したそうです。それからA選手は、長野県でもバレーボールで有名な高校に進学して活躍し、実業団に入ってセッターとして活躍しました。

昨年度、高校野球で甲子園を沸かせた早稲田実業の清宮という選手がいました。彼は、毎日学校で厳しい練習を行って家に帰ってきた後、自宅にトレーニング室があり、そこで毎日欠かさず3時間、自主的なトレーニングを行っていたそうです。私が以前勤めていた中学校に、バイオリンのコンクールで日本一になった女子生徒がいました。私が「日本一なんてすごいね。毎日どのくらいバイオリンを弾くの？」と軽く尋ねると、「三つん、五・六時間かな」と答えました。部活動はやっていませんでしたが、帰宅してから毎日五・六時間バイオリンの練習ができる心の強さに驚きました。

二つ目は、長野県のある中学校のB先生の話です。B先生は、柔道で世界をめざした経験をお持ちで、柔道の大きな大会で、柔道家の吉田秀彦選手と決勝で戦い、敗れたという方です。吉田選手は、その後、一九九二年のバルセロナオリンピックで金メダルを取り、世界一になりました。

ある時、B先生は、柔道の日本代表の強化合宿に参加し、様々な階級で世界一をめざす方々と共に数週間を過ごしました。吉田選手もその中にいました。その合宿は、

自分が興味をもったこと、好きなこと、やりたいことに対して、様々な誘惑、例えば、ゲームや漫画を読む等がありますが、これらの誘惑に負けず、何よりも優先してやり抜く力があるからこそ、夢や目標の実現につながるのです。このような、自分のやるべきことに向かえる力というのも、大切な学力です。

三学期に向けて、そして来年度に向けて、

皆さんそれぞれに、目標を立てていくと思います。それは、テストで何点を取るか、家庭学習にしっかり取り組むとか、部活動で県大会に出場するとか、学校の外の習い事で成果を出すとか、それぞれに違うことでしょう。その達成に向けて、日々、取り組むべきことを見定め、やり抜く強い心をもてるか。そして、それが自分にとって当り前の普通のこととなり得るか。その強い心を持ち続けられた人達が、目標を達成し、「夢は叶う」と話しているのです。

私も、様々な誘惑や怠け心に負けてしまいうちにならなりました。実際に負けてしまっても多々あります。私のような年齢になっても、毎日が挑戦の日々なのです。皆さんが、昨年よりもちょっとでも強い心を持って取り組み続け、夢や目標を叶えることができるよう、願っています。

今学期頑張りたいこと

一年四部 K・Aさん



私は、三学期に頑張りたいことが三つあります。一つ目は、来年二年生になるにあたって、先輩の姿をよく見て学ぶことです。富士見中学校の宝である「あいさつ・清掃・合唱」の三つを先輩方が教えてくださいました。これらをさらに大切に、来年の一年生に伝えられるようにしたいです。そして、委員会についても、より多くのことを学びたいです。私は活性化委員なので、一学期、二学期と先輩方の生徒会を見て、私ももっと積極的に参加しなければなあと感じています。なので、二学期は活性化委員会です。今年から大きな声で応援をし、積極的に参加していきたいです。二つ目は、勉強です。中学生になり、勉強が難しくなると、得意な科目と苦手な科目が明確になりました。前回のテストでは、苦手な科目を中心に勉強したら、二学期の中間テストより点数が良くなりました。苦手な科目も後回しにせず勉強したいです。三つ目は、部活です。今年からは一年生

も本格的にコンクールに出られるようになります。今月には、アンサンブルコンテストという大会があります。校長先生が話してくださった、強気の四訓を実行し、大会に臨みたいですね。楽器の練習だけでなく、返事やあいさつなど、基本的なことができるよう身に付けたいです。

三学期の抱負

二年三部 K・Sさん



突然ですが皆さんには夢がありますか？私にはありません。あるといっても今の私では叶うことではないでしょう。その理由は、授業態度が悪いこと、提出物が出せないからです。まず、授業態度。これは二学期の中間頃からノートをとらない、または前を話をしてくださる先生の話を聞いていないなど、授業中にぼんやりしていることが多くなりました。期末テストが終わった頃、この状況では、だめだと思いい、「しっかりとノートをとりよう」、「先生の話を聞くこと」、そう意気込みましたが、心の中でそう思うだけで、実行することができませんでした。

そして提出物。これはもう小学校の低学年から言えることで、今でも学校にいる時は、「帰ったら宿題をやろう」と意気込み、家に帰ったら「やっぱり面倒くさいから後でいいや」と、やる気を無くし、後回しにする。それをずっとずっと永遠に繰り返して小学校を卒業し、今まで過ごしてきました。私はすくなくのききな性格で始めたら終わるまでやらないと納得がいかなかった。始める前だと後回しにしてしまふ癖があるため、ちゃんとやろうと意気込んで、実行する直前に「やっぱり後回ししよう」と思ってしまうのだと思います。その証拠に、何かをやるときは、ほとんどの確率で、「やっぱり後回ししようかな」とそう思ってしまった自分がいます。授業態度も提出物もそれと同じようなもので、「黒板はまだ消されないうらうし、ノートを取るのは後でいいや」、「明日の朝、早く起きて宿題をやればいいや」とそんなことを繰り返しています。けれど、当然のことながら、授業態度も提出物も、どちらかがテストの点数と関わるし、通知表にも評価されます。

二学期の最初の先生の授業で、テストの点数も通知表の評価も高校入試に関係している、その二つが低いと入試に受かる可能性が低いから、今のうちに良くしていった方がいいいと学級担任の先生に聞きました。つまり今の私の状況では、高校に受かるのも難しいと思います。なので、まず私は、ここである決意をしたいと思っています。三学期には、後回しにせず、授業態度を良くし、提出物を毎日、全部出すようにします。そのために後回しにすることを少しずつ無くすということ、頭の中に入れて、授業中は、無心でノートを取って、提出物は家に帰ったらすぐにやる、ということを意識したいです。この二つを今よりも、もっとよくすることができれば、今はかなう可能性の低い夢も、きつかなう可能性が高くなると思います。私の夢はまだ生まれて間もない夢ですが、自分の夢の実現のためにも、ここでの決意をきっかけに、今までの自分をいい方向に変えていけるようにしたいです。

また、その他にも、三学期にやることはたくさんあります。例えば、来年は私たちが最高学年なので、三年生がいるあとわずかな期間を大切に、生徒会を引き継ぐために先輩の姿をよく見るなど最高学年の準備があるし、修学旅行への準備も本格的になります。なので、自分ができることからコツコツとやって積み重ねていきたいです。

三学期の目標

三年一部 S・Mさん



中学校生活最後の学期となる三学期。たくさん頑張りたいことがあります。その中でも特に頑張りたいことが三つあります。まず一つ目は勉強です。私は高校への進学を考えています。最近までしっかりと高校のことについて考えられていなかった私は、正直今、入試まで本当にわすれかけていることに焦っています。同時に過去の自分に対しての後悔もあります。去年の今頃、高校入試に向けての問題集が配られたりし

ていました。「そんなにやらなくても大丈夫だろう」と思っていました。今思うと、「あの頃からやっていたら良かった。」と思ったことは何度もあります。でも、過去のことを悔やんでいても、これからを変えることはできません。勉強は苦手です。でもやるしかありません。私は将来、漠然ですが、やりたい仕事があります。その仕事に就くためにも、自分の希望している高校にまず合格することが夢への第一歩だと思っています。自分の将来のために勉強を頑張りたいです。

二つ目に学校生活一日一日を充実させていくということです。クラブの仲間と過ごす時間も、おいしい給食が食べられることも、本当にあとわずかです。卒業するときに充実した中学校生活だったと思えるように、そして、たくさんの思い出をつくりたいように、毎日の何気ない生活を大切にして残りの学校生活を過ごしていきたいです。

三つ目に、基本を大切にしておくことです。基本というのは挨拶だったり、清掃時の身支度だったり四月の生活オリエンテーションで確認したこと。基本的なことができなければ、最初に書いた勉強や、仲間との学校生活などの活動もなんとなく疎かになってしまおうと思っただけです。「まあいいか」なんていう心の隙をつくらないようにしていきたいです。

三ヶ月後、私は富士見中学校を卒業します。その時「やり切った」と言っていて、卒業できるように、この三つのことを頑張る三学期にしたいと思います。

富士見町立富士見中学校

諏訪郡富士見町富士見四六四番地

TEL 0266-6212009

担当 油井 彰